

9 看護師の「音」に対する意識の変化 —スタッフステーションから発生する音の軽減を試みて—

○高橋 麻由, 濱田 芳恵, 新子 美智子 (IHI 播磨病院)

I. はじめに

5階病棟では、「患者様が安心して快適な入院生活が送れる病棟にする」という看護目標のもと、日々の看護業務を行っている。平成19年2月から新病院となり、スタッフステーションがオープンカウンターとなったことで以前に比べ様々な音が漏れやすい環境となった。オープンカウンターとなった際、スタッフ間で声をかけあっていたが、廊下にステーション内の声が響く等、スタッフの「音」に対する意識は、以前と変化は見られていなかった。そこで、患者にとって快適な療養環境を整えるために、スタッフステーションから発生する音の中で患者が不快に感じている音を明らかにし、看護師に働きかけを行うことで、音の軽減が図れ、「音」に対する意識に変化が見られたので報告する。

II. 研究方法

1. 研究対象：5階病棟入院中のコミュニケーションが可能な患者、5階病棟看護師19名
2. 研究期間：平成21年4月～10月
3. 研究方法：
 - 1) 患者31名に1回目のアンケート調査を実施。
 - 2) 音の軽減に対しての働きかけについてスタッフに説明し、各勤務終了後、意識チェック表を記入。
 - 3) 意識チェック表記入1ヵ月後、患者21名に2回目のアンケート調査を実施。
 - 4) アンケート・意識チェック表は評定尺度で点数化し、Mann-WhitneyのU検定を用いて分析。
4. 倫理的配慮：研究協力者に対して、研究の目的と方法、研究協力の任意性と撤回の自由、個人情報の保護を文章に基づいて説明し、同意を得た。

III. 結果

1回目のアンケートの結果、患者が不快と感じる音は、①ワゴン、②電話、③モニターのアラーム音、④スタッフの話し声、⑤スタッフの作業音、⑥ナースコールの順であった。2回目のアンケートで①②③⑤の平均点は低下、④⑥は変化なく、全ての項目で有意差は検出されなかった。

看護師の音に対する意識は全ての項目において平均点は上昇、①については有意差が見られた。

IV. 結論

音の軽減を図る働きかけを行ったことで、看護師の「音」に対する意識は向上した。物品・機器に起因する音については、患者の不快感は軽減出来た。それは、原因を考えた上での具体的な働きかけであったため、行動に移しやすく、不快感の軽減に繋がったと考える。しかし、話し声等の意識に対する働きかけにおいては、抽象的な具体策であったため、不快感の軽減に繋がらなかったと考える。また、意識チェック表を用いたことで、音の軽減に対する意識は向上したが、音の軽減を図るための行動を維持・持続するまでに至らなかった。意識を維持・持続するためには、自分1人ではなく、スタッフ間で気付いた時に、お互いを注意し合うことで、意識がさらに向上し、行動に移せたのではないかと考える。

今後は、快適な療養環境を整えるという目的意識を常に念頭に置き、病棟全体で意識を高めあい、日々の看護業務を行っていききたい。